

会 報

第 128 号

2021 (令和 3 年) 年 2 月 8 日発行 編集・発行 図書館情報学教育部会 (ISSN 2189-6194)

目 次

2020 年度 図書館情報学教育部会活動総会が開かれました	1
2020 年度 図書館情報学教育部会臨時研究集会	3
2020 年度 図書館情報学教育部会第 1 回幹事会議事要旨	4
2020 年度 図書館情報学教育部会活動総会資料	
資料 1 2019 年度活動報告	6
資料 2 2019 年度決算報告	7
資料 3 2020 年度活動計画 (案)	8
別紙 1 2020 年度事業計画及び予算調書	9
資料 4 2020 年度予算 (案)	10

2020 年度 図書館情報学教育部会活動部会総会が開かれました

5 月 17 日に日本図書館協会会館にて開催予定であった 2020 年度図書館情報学教育部会活動部会総会は新型コロナウイルス (COVID-19) による緊急事態宣言を受け、集会での実施が困難となったことから「公益社団法人日本図書館協会活動部会総会及び役員会議等開催における決議の特例規程(新型コロナウイルス感染症対応)」の第 4 条規定に基づき、電磁的方法により開催された。部会員には、部会ウェブサイト、メーリングリストを通して、今回の開催方法を周知するとともに、本総会の議案 1~4 および資料 1~4 を部会員のメールアドレスへと送信し、下記の日程による投票を実施した。

【2020 年度活動部会総会実施の日程】

5 月 6 日(水)まで 連絡先の確認
5 月 7 日(木) メールにて議案および資料を送付。議案に関する質問及び投票受付(いずれもメールによる)
5 月 13 日(水) 質問締切
5 月 14 日(木)-17 日(日) 質問に対する回答作成
5 月 18 日(月) メールにて質問への回答を送付(内容確認期間は 1 週間)
5 月 24 日(日) ※メール投票締切 (23 時 59 分まで)

5 月 25 日(月)-30 日(土) 集計、議事録の作成

5 月 31 日(日) メールにて総会の結果報告

1. 会勢報告

大谷康晴第 31 期部会長より部会員に向け 6 月 1 日に送信されたメールにて、2020 年 5 月 13 日(総会招集)時点の部会員数 185 名、期限までの回答総数 42 名が確認され、総会が成立したことが報告された。

3. 議事

1) 議案1 (2019年度活動報告)

配布資料に基づいて2019年度活動報告があり、異議なく了承された。(資料1)

2) 議案2 (2019年度決算報告)

配布資料に基づいて2019年度会計決算報告があり、異議なく了承された。(資料2)

**表1. 2019年度(令和元年度)図書館情報学教育部会
部会経費支出報告書**

<収入の部>

科目	予算額	決算額	増減額	説明
部会活動費	370,000	370,000	0	
参加費	40,000	25,000	-15,000	
寄附金 (指定寄附)	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
収入計	410,000	395,000	-15,000	

<支出の部>

科目	予算額	決算額	増減額	説明
旅費交通費	302,000	328,000	26,000	
通信運搬費	10,000	0	-10,000	
消耗品費	5,000	0	-5,000	
諸謝金	88,000	13,364	-74,636	
印刷製本費	5,000	1,555	-3,445	
支出計	410,000	342,919	-67,081	
収支差額	0	52,081	52,081	

【資料2に関する補足説明】

(1) 寄附金(指定寄附)、雑収入の費目について予算はゼロでも決算はゼロで良いか。

雑収入については、2019年度は雑収入として算入しなければならぬ事態が発生しなかったため、決算でもゼロ円となっている。寄附金は、部会活動費を使い切った場合に、協会に預けられていたものを引き出した時に部会会計として収入が発生することになっており、2019年度は、当初は

第2回研究集会の実施のため部会活動費を使い切る予定だったが新型コロナウイルスの感染拡大によって中止とし、予定していた支出がなくなった。結果として支出総額が部会活動費を下回ったため、寄附金の引き出しが行われず決算でもゼロ円となった。

(2) 収支差額(残金)は、繰越金として記載する必要はないか。

公益社団法人として正式な会計は一つとなっており、部会としての繰越金は一切発生しないことになっている。なお、指定寄附金については、寄附された金額の80%(残りは間接業務経費として協会の方に帰属)が部会の活動のためにストックされ、この総額はきちんと繰越されている。

3) 議案3 (2020年度活動計画(案))

配布資料に基づいて2020年度活動報告があり、異議なく了承された。(資料3)

なお、部会員より今後の部会活動に関してWeb会議での研究会開催などを検討する要望がだされた。

4) 議案4 (2020年度予算(案))

配布資料に基づいて2020年度会計予算案が示され、異議なく了承された。(資料4)

**表2. 2020年度(令和2年度)図書館情報学教育部会
部会経費収支計画書**

<収入の部>

科目	2020年度 度予算	2019年 度予算	増減額	説明
部会活動費	406,000	370,000	36,000	部会長選考 の実施
参加費	40,000	40,000	0	
寄附金 (指定寄附)	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
収入計	446,000	410,000	36,000	

<支出の部>

科目	2020年度予算	2019年度予算	増減額	説明
旅費交通費	302,000	302,000	0	
通信運搬費	9,000	10,000	-1,000	
消耗品費	5,000	5,000	0	
諸謝金	88,000	88,000	0	非会員講師6名分
印刷製本費	5,000	5,000	0	
雑費	1,000	0	1,000	振込手数料
部会長選出委員活動費	36,000	0	36,000	
支出計	446,000	410,000	36,000	
収支差額	0	0	0	

【資料4に関する補足説明】

(1) 決算同様に、繰越金の計上は必要がないか。

部会としては、毎年部会活動費を交付されて、残余がある場合は協会全体の会計に戻すという仕組みになっているため、部会の繰越金というものは存在しない。

(2) 寄付金の見込み額のような計上の必要はないか。

協会全体の会計では寄附金の見込みは計上されており、二重の計上を避ける意味でも、必要ない。なお、指定寄附金はいったん協会の方の管理となっている。部会活動費を使い切つてなお支出を伴う活動が必要な場合や、臨時的な支出を伴う活動がある場合に、協会から指定寄附金を引き出して執行することになる。

(3) 監査報告は必要がないか。

公益法人となつてからは部会として口座会計を持つという形ではなくなり、会計はあくまで協会本体のみとなっている。したがって、協会全体については監事による監査は厳正に行われているが、部会では協会に対して適切な報告を行えば十分となる。

2020年度 図書館情報学教育部会 臨時研究集会

2020年度はCOVID-19の影響により、多くの大学でオンラインでの全面的な授業提供がなされた。これらオンライン授業を提供・支援するツールとしてさまざまなウェブ会議システムの使用が推奨されているが、授業を実施する教員側にその利用方法に関する理解が十分にあるとは言えない中で、授業を実施せざるを得ない状況に置かれていた。このため、教育部会では、5月17日開催予定であった第1回研究集会に代えて、各種ウェブ会議システムでの会合を設定し、習熟度を高めていくこと、部会員同士の情報交換の機会を設けることを目的とした臨時研究集会を実施した。

「オンライン授業情報交換ミーティング」

(2020年度臨時研究集会)

【ウェブ会議システム】

- ・Cisco Webex Meetings : 4月25日 10時-11時
- ・Google Meet : 4月25日 13時-14時
- ・Zoom Meetings (1回目) : 4月25日 15時-16時
- ・Skype for Business : 4月26日 10時-11時
- ・Zoom Meetings (2回目) : 4月26日 13時-14時

4月25日、26日の2日間で、4システム計5回のミーティングに延べ50名ほどの参加があった

オンライン授業情報交換ミーティング総括：大谷康晴部会長

1) 学生への配慮が必要

- ・ 通信環境：できるだけ負担のないようにする。
- ・ PC 環境：家族全員で PC 共有という学生も多く、授業をスマホで履修するしかない学生が一定数存在する。
- ・ Wifi 環境：Wifi に接続できないとか、通信量の制約がある学生がいる。
- ・ モラールやメンタル：オンライン授業の履修は消耗が激しい（複数のミーティングに参加した部会役員は一緒に疲れたという感想）。
- ・ 教材の視聴に要する時間：大学側の通信環境も踏まえると、短い教材を複数用意の方がよい。
- ・ 課題：課題の出し方に気を付けないと学生にとっては負担が大きすぎる（挫折する学生が出る可能性も）。ごくごく簡単な課題にしたり、取り組む時間を多めに確保するなどの配慮も必要。

2) 大学の通信環境

- ・ いくつかの大学で通信トラブルが発生している。
- ・ 教材の容量の制約もあるので、 unnecessary 動画教材を配置したり、リアルタイム授業を実践したりしない。

3) 説明への配慮

- ・ 重要な説明は文字資料も用意：通信状況はかなり悪化することがあって、重要な部分が聞き取れないこともある
- ・ チャット機能に注意：フォローとか、ちょっとした質問・意見に役立つが、ログイン時点以降しか参照できないので、遅刻者への課題指示はチャット以外の主題で行う必要がある。

2020 年度 図書館情報学教育部会 第 1 回幹事会 議事要旨

日時：2020 年 4 月 10 日（金）10 時から 12 時 20 分

会場：ウェブ会議（Zoom）

出席者（五十音順、敬称略）：

大谷康晴、小山憲司、坂本俊、下田尊久、下山佳那子、
角田裕之、長谷川幸代、山中秀夫、渡邊由紀子

議題次第：

・ 資料確認

1. 会議の成立の確認（部会規程第 11 条）

部会規程第 11 条 10 項に則り、ウェブ会議方式による本会議の成立を確認。

2. 報告事項

1) 常任理事会（4 月 9 日開催）

- ・ 「公益社団法人日本図書館協会 活動部会総会及び役員の会議等開催における決議の特例規程（新型コ

ロナウイルス感染症対応）」が制定され、「部会長は部会総会等の開催が困難であると判断したときは、書面又は電磁的方法により部会総会等に代えることができる」ようになった。

- ・ 教育部会では、期限を決めて ML を通じて部会員に議案を送り期限までの投票を呼びかけ、審議事項に関する質問・意見などがあればメールで提出してもらう方法を採用する。
- ・ ただし、ML のメールが届かない部会員もいるため、協会ウェブサイト事前に知らせを掲示するなど周知連絡を徹底できるよう、協会事務局に大谷部会長から相談する。
- ・ 活動部会総会と研究集会は切り離して開催し、対面による集会を避けるために研究集会のテーマを変更して、現環境下におけるオンライン授業の試行錯誤

の情報を共有し、教授方法を検討する機会を設ける。

2) 目録委員会から理事長宛ての三大ツールの公衆送信等について

- ・ 目録委員会委員長より理事長宛に三大ツールの公衆送信等を認めてほしいとの要望があり、教材として購入している大学には可能な限り認める方向で検討されているが、協会発行の教科書については法律以上の条件は難しい様子。

3) 図書館実習について

- ・ 文科省から大学と教育委員会に通知があった教育実習の扱いに準じるのではないかと。
- ・ 各大学の実習科目の扱いとその地域の新型コロナ感染状況によるだろう。
- ・ 図書館実習の問題については、今後も意識して情報交換する。

3. 議事

1) 2019 年度事業報告・決算

- ・ 事業報告の冒頭に「はじめに」として新型コロナに関する説明を加えた。
- ・ 決算については、第 2 回研究集会が中止になったため、黒字となった。

2) 2020 年度第 1 回活動部会総会の開催

- ・ 6/11 の代議員総会は法令で決められており、まだ変更されていない。
- ・ 5/31 に結果をまとめた ML を流せるよう、修正等がありえることを考慮した日程にする。
- ・ 5/7 議案送付、5/24 投票期限、5/31 結果公表。
- ・ 5/7 の議案送付までに連絡先の調査をする。
- ・ 「図書館雑誌」5月号に総会の案内を掲載してもらう。
4/28 入稿締め切り、発送は中旬。

3) 2020 年度第 1 回活動部会総会の資料について

- ・ 活動報告の幹事会会場を「日本図書館協会会館 2 階」に修正する。
- ・ 活動計画に研究集会の形態は記入せず、従来のように回数のみ記載する。協会からは 2 回分の予算配分がある。
- ・ 幹事会は年 1 回ではないため、年 3 回に修正する。

- ・ 2020 年度は部会長選挙がある。
- ・ 協会から示された予算計画では、部会長選出のための委員会に関する予算が増額されているため、詳細を小山先生と大谷先生で相談して予算案を修正する。

4) 2020 年度の分担

□ 第 1 回研究集会は幹事で相談しながら考える。

- ・ 第 2 回研究集会は北海道での FD とし、担当は下田先生、坂本先生。

5) 第 106 回全国図書館大会

- ・ 分科会は 10/30 (金) 午前 3 時間で開催予定。
- ・ 担当は長谷川先生、山中先生。
- ・ テーマは中止となった研究集会のテーマを引き継いで「これからの目録教育を考える」とし、改めて講師を依頼する。
- ・ 地域情報資源の取り扱いも含めるか？ (デジタル化された情報のメタデータ付与を想定。)
- ・ 基調講演 1 名、講演 2 名。
- ・ 現場に接点を持つ報告があるとよい。
- ・ 和歌山県立図書館長が、がん情報の提供について報告している。
- ・ 日本全国の目録の方向性と教育部会がどこに注目するかを考える。
- ・ 詳細は今後幹事 ML で相談する。

4. その他

- ・ 図書館情報学教育に関して幹事に何か問い合わせがあれば、幹事 ML で共有してほしい。
- ・ 5 月の研究集会中止のお知らせは、今週末に文案を作成し、週明けにメールマガジンで配布する。
- ・ 第 1 回研究集会に代わるものを 4/18-19 にヴァーチャルで開催するか。各種オンライン会議アプリの使い方、教材コンテンツ作成法など。幹事 ML で確認する。
- ・ 部会 ML でメールが戻ってきた部会員のアドレス確認をする。

以上

資料 1 2019 年度活動報告

① 2019 年度事業報告

(1)活動部会総会の開催

2019 年 6 月 9 日(日), 日本図書館協会会館 2 階研修室で活動部会総会を開催した。参加者 37 名(うち委任状提出者 21 名)。

(2)2019 年度研究集会の開催

2019 年 6 月 9 日(日), 日本図書館協会会館 2 階研修室で第 1 回研究集会を開催した。

第 1 部では「図書館情報学教育の動向報告」をテーマに, 小田光宏氏(青山学院大学)の報告があった。第 2 部では「大学院における図書館情報学教育」をテーマに, 松本直樹氏(慶應義塾大学), 角田裕之氏(鶴見大学), 青柳英治氏(明治大学)の報告があった。参加者 28 名。

2020 年 3 月 15 日(日), 日本図書館協会会館 2 階研修室で開催予定であった第 2 回研究集会(「NCR2018 年版刊行後の情報資源組織論及び演習」)は, 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

(3)第 105 回全国図書館大会分科会の開催

2019 年 11 月 22 日(金)午後, 三重県総合文化センター(三重)で開催された第 105 回

全国図書館大会において第 6 分科会(男女共同参画棟 3F セミナー室 C)を開催した。「図書館員のリカレント教育」をテーマに, 呑海沙織氏(筑波大学), 野口久美子氏(八洲学園大学), 伊東直登氏(松本大学)の報告があった。参加者 45 名。

② 部会の運営状況

(1)『会報』電子版の発行, Web サイトでの活動周知

『会報』第 124 号(2019 年 4 月), 第 125 号(2019 年 5 月), 第 126 号(2019 年 7 月), 第 127 号(2020 年 3 月)を発行した。部会員にメールリストで案内した後, Web サイトで一般公開した。

Web サイト等で指定寄附を呼びかけ, 2019 年度中, 18 件 14 万円(部会分 112,000 円)が寄せられた。3,000 円以上の寄附者には, 研究集会参加費を免除した。

(2)幹事会の開催 (3 回)

2019 年 4 月 14 日(日)慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟地下第一会議室 2019 年 6 月 9 日(日)日本図書館協会会館 2 階研修室

2019 年 11 月 22 日(日)三重県総合文化センター男女共同参画棟 3F セミナー室 C

(以上)

資料2 2019年度 決算報告

2019年4月1日から2020年3月31日まで

<収入の部>

科目	予算額	決算額	増減額	説明
部会活動費	370,000	370,000	0	
参加費	40,000	25,000	-15,000	
寄附金 (指定寄附)	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
収入計	410,000	395,000	-15,000	

<支出の部>

科目	予算額	決算額	増減額	説明
旅費交通費	302,000	328,000	26,000	
通信運搬費	10,000	0	-10,000	
消耗品費	5,000	0	-5,000	
諸謝金	88,000	13,364	-74,636	
印刷製本費	5,000	1,555	-3,445	
支出計	410,000	342,919	-67,081	
収支差額	0	52,081	52,081	

資料3 2020年度活動計画(案)

はじめに

- 例年は、協会に提出した事業計画及び予算調書に基づき、活動を行っている
(2020年度分については別紙1参照)
- しかし、本年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴ってさまざまな活動が不透明である
- 以上の点を踏まえて、協会に提出した2020年度事業計画及び予算調書をベースとしつつ、昨今の社会的情勢を踏まえた活動計画案を提出する
- また、個別の活動についても当面の間、対面を伴うものは控えて可能な限り代替的手段で行うとし、多少の活動の遅延は容認する(特に、2以降の活動内容について)
- なお、状況の変化により、計画(予算も同様)の変更を行わなければならない部分があることはご了承願いたい

活動計画案

1. 講座・セミナー・研究集会等

- 研究集会(2回)
- 第106回全国図書館大会分科会(図書館情報学教育)運営
- 活動部会総会
 - 定期(特例規程により電磁的方法による開催)1回
 - 臨時(部会長選出のための総会)1回
- 図書館情報学教育部会長選挙

2. 研究・資料収集

- 『日本の図書館情報学』調査に関する検討

3. 図書館振興に係る事業(政策提言, 意見表明等)

- 『会報』電子版の発行
- 図書館情報学教育の今後のカリキュラムの検討準備
- 国際的動向の調査(収支発生予定なし)

4. その他

- 幹事会(部会役員による会合):年3回(電磁的方法等含む)

2020 年度事業計画及び予算調書 (別紙 1)

提出日 2019 年 12 月 4 日 記入者名:大谷康晴

TEL:03-5981-3536

メール: ootaniy@fc.jwu.ac.jp

活動部会名: 図書館情報学教育部会

代表者名: 大谷 康晴(日本女子大学)

TEL: 03-5981-3536

メール: ootaniy@fc.jwu.ac.jp

1. 事業計画

(1) 講座・セミナー・研究集会等

- 研究集会(2 回)
- 第 106 回全国図書館大会分科会(図書館情報学教育)運営
- 活動部会総会(定例, 臨時)
- 図書館情報学教育部会長選挙
- 関係諸団体との共催協力(収支発生予定なし)

(2) 研究・資料収集

- 『日本の図書館情報学』調査に関する検討

(3) 図書館振興に係る事業(政策提言, 意見表明等)

- 『会報』電子版の発行
- 図書館情報学教育の今後のカリキュラムの検討準備
- 国際的動向の調査(収支発生予定なし)

(4) その他

- 幹事会(部会役員による会合): 年 1 回

2. 予算調書(別紙様式 2-4 参照)

1) 予算計画書(事業別)

2) 収入支出予定月別内訳(収入の部・支出の部)

3. その他

1) 部会交通費(参考) *2020 年度より全国図書館大会と第 2 回研究集会は半数程度で分担することを検討

・部会役員数(9 名), 役員会(幹事会)年間開催数(1 回), 平均参加数(9 名),

研究集会, 全国図書館大会運営(5 名×2 回)

・1 回の交通費(役員会 130,000 円, 研究集会等 94,000 円), 年間交通費(318,000 円(130,000+188,000))

	金額	人数	収入
部会員	1,500	11	16,500
協会会員	2,000	1	2,000
協会非会員	3,000	1	3,000
指定寄附者	0	12	0
合計		25	21,500

資料4 2020年度予算(案)

2020年4月1日から2021年3月31日まで

<収入の部>

科目	2020年度予算	2019年度予算	増減額	説明
部会活動費	406,000	370,000	36,000	部会長選考の実施
参加費	40,000	40,000	0	
寄附金 (指定寄附)	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
収入計	446,000	410,000	36,000	

<支出の部>

科目	2020年度予算	2019年度予算	増減額	説明
旅費交通費	302,000	302,000	0	
通信運搬費	9,000	10,000	-1,000	
消耗品費	5,000	5,000	0	
諸謝金	88,000	88,000	0	非会員講師6名分
印刷製本費	5,000	5,000	0	
雑費	1,000	0	1,000	振込手数料
部会長選出委員 活動費	36,000	0	36,000	
支出計	446,000	410,000	36,000	
収支差額	0	0	0	